

# 2014 年度学習院大学史学会総会

— 9:30 ~ 10:45 北2号館10階大会議室 —

## 第30回 学習院大学史学会大会

June 2014 **6** / [土] **14** 学習院目白キャンパス  
総会：9:30 ~ 10:45  
大会：11:00 ~ 17:30

### ▶ 第一会場 北2号館10階大会議室

#### 第1部 正徳度「国書引替一件」における対馬藩

望田朋史 (学習院大学大学院博士後期課程)

#### 第2部 室町後期の武家祈祷 一別奉行・伝奏の動向を中心に—

石田出 (学習院大学大学院博士後期課程)

### ▶ 第二会場 北2号館10階中会議室

#### 第1部 王莽期の祥瑞

菅野恵美 (学習院大学国際研究教育機構客員研究員)

#### 第2部 在華宣教師による近代中国民衆宗教調査の足どり

小武海櫻子 (学習院大学非常勤講師)

### ▶ 第三会場 北2号館10階新中会議室

#### 第1部 ティベリウスの帝位継承と公職選挙

丸亀裕司 (学習院大学大学院博士後期課程)

#### 第2部 フランス絶対王政下の警視 —パリ社会との関係性をめぐって—

神野峻至 (学習院大学大学院博士前期課程)

※第1部 (11:00 ~ 12:00)、第2部 (13:00 ~ 14:00)

### ▶ 講演 15:00 ~ 17:30 中央教育研究棟3階301教室

#### 剣闘士とポンペイ最後の日

本村凌二 (早稲田大学特任教授)

#### 江戸時代の宗教と朝廷の役割

高埜利彦 (学習院大学教授)

### ▶ 懇親会 18:00 ~ 20:00 さくらラウンジ (輔仁会館1階)

学習院大学史学会

学習院大学文学会共催

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1 学習院大学文学部史学科研究室内

お問い合わせ先: shigakukaitaikai@yahoo.co.jp (大会実行委員)

## 第一会場

## 望田朋史 正徳度「国書引替一件」における対馬藩

正徳元年（1711）に来日した朝鮮通信使は、江戸での国書交換を白紙に戻し帰路についた。改書された日朝両国の国書を対馬で再交換する過程における対馬藩の思惑と活動は、従来の研究では未解明の部分が多い。そこで本報告では帰路途上の藩主一行と江戸藩邸、国元あるいは倭館などの間で交わされた対馬藩士の遣り取りを手掛かりに、対馬藩が前例の無い「国書引替一件」にどのように対応していたのかを考察する。

## 石田 出 室町後期の武家祈祷一別奉行・伝奏の動向を中心に―

これまでの武家祈祷研究は祈祷主宰権の所在や祈祷編成といった観点で論じられてきたが、室町後期については若干の見通しに留まっている。そこで本報告では、幕府権力が変質したとされるこの時期において武家祈祷がどう展開したのかを考察する。主に東寺の武家祈祷を素材として、幕府における祈祷文書の変化を伝奏・別奉行の活動と関連付けて論じる。そして寺社権門の主体的動向を考慮しつつ、当時の武家祈祷の実態を明らかにする。

## 菅野恵美 王莽期の祥瑞

祥瑞はもともと自然現象や動物・器物など様々な事象で吉祥を告げる存在である。ただし、祥瑞は前漢後期、革命の書を伴い天から下された事物と見なされると、王朝の継続・交代に大きな力を発揮するようになる。本論では出土文物を利用しつつ、王莽期前後の祥瑞の形状的特徴をいくつか指摘し、思想的背景について元皇后との関係から新たに考察することを目的とする。

## 小武海櫻子 在華宣教師による近代中国民衆宗教調査の足どり

二〇世紀初頭の中国で急速に発展した数多くの民衆宗教一同善社、紅卍字会、道德学社…。それらの実態をつかもうとしたのは、何も橋樑や酒井忠夫をはじめとする戦前の日本人調査員だけではない。欧米の在華宣教師がどのような関心からそれらに目を向け、接触していったのか。アメリカ人宣教師デ・コーンが江蘇省で行った同善社調査の足どりを辿りながら、宣教師らの民衆宗教理解の一端を明らかにする。

## 丸亀裕司 ティベリウスの帝位継承と公職選挙

後 14 年のアウグストゥスの死去、そしてティベリウスの帝位継承と時を同じくして実施されていた公職選挙について、タキトゥスは「この時初めて、マルスの野から元老院議員の下へと選挙が移された」と述べている。本報告では、元老院に移されたと言われる公職選挙の中で皇帝がどのような役割を担ったかを関連史料から明らかにし、さらにその意図や結果、影響についても検討したい。

## 神野峻至 フランス絶対王政下の警視―パリ社会との関係性をめぐって―

従来の研究において、パリの民衆世界に直接関与した警視 (Commissaire-Enquêteur-Examineur) が果たした重要な位置は、かねてより指摘されてきた。この司法官については、パリに生きる人々に良く知られ、街区に深く根を下ろした司法官として語られることが多い。本報告はこの警視について、研究史やそこで用いられた史料を読み直し、民衆世界との関係性を再考することを目標に据える。

## 第三会場

## 講演

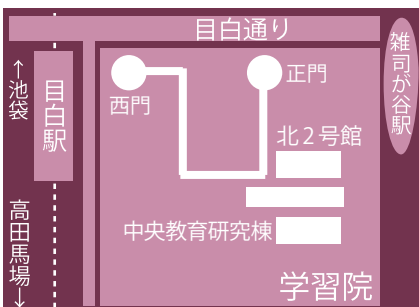
中央教育研究棟 3階 301 教室

## 本村 凌二 剣闘士とポンペイ最後の日

6 月 7 日に封切られる映画「ポンペイ」は 79 年夏にヴェスヴィオ山の噴火で埋没したポンペイを舞台とする剣闘士の物語である。この物語の背景にどのような史実があるのか、剣闘士興行の実態とポンペイ噴火の経過をたどりながら、歴史に翻弄される人間について考えてみたい。

## 高埜 利彦 江戸時代の宗教と朝廷の役割

江戸時代の宗教について、その特徴を地方の城下町や農漁村から捉え、さらに中央（江戸・京都）から捉える。そのような特徴を持つ江戸時代の宗教に対し、朝廷がどのような役割を果たしていたのか、天皇・朝廷が自ら担う国家祭祀や、官位叙任制度・公家の本所を通じた宗教者の統制について、具体的に述べる予定である。しかし、こんな大きなテーマを 60 分で語れるのだろうか？



## 第二会場